

令和元年度（第63回）
岩手県教育研究発表会発表資料

国語 分科会

児童が「わかる」「できる」を実感できる国語授業づくり
ー複式学級における学び合い、学びを表現する児童の育成をとおしてー

令和2年2月14日
遠野市教育委員会
遠野市立附馬牛小学校
照井裕悦

目 次

研究主題	3
I 主題設定の理由	3
1 今日的課題から	3
2 学校教育目標の具体化から	3
3 子どもの実態から	3
4 遠野中学校区 学力向上の視点から	3
II 研究の内容と方法	4
1 内容	
(1) 本研究で目指す授業	4
(2) 手立て	4
(3) 基本的な単元構想と指導過程	4
(4) 複式学習を行う上で付けなければならない力の育成	4
(5) 学習用語の習得	5
III 全体構想	6
IV 授業実践	7
1 課題意識の持続の工夫（遠野中学校区 視点1）の実践例	7
2 学習活動の工夫（学び合い、学びを表現させる）の実践例	7
3 達成状況の把握の工夫（遠野中学校区 視点2）の実践例	9
各学年の振り返りの変容	10
V 実践結果と考察	11
VI 成果と課題	12

研究主題

児童が「わかる」「できる」を実感できる国語の授業づくり

～複式学級における学び合い、学びを表現する児童の育成をととして～

児童が主体的・協働的に学ぶ国語科の指導過程を研究することによって、授業者の指導力向上と国語科において、どの児童も「わかる」「できる」を実感できる授業づくりをめざす。

I 主題設定の理由

1 今日的課題から

21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。このような知識基盤社会やグローバル化は、知識や人材をめぐる国際競争を加速させる一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を増大させている。

このような状況の中、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題、自分への自信の欠如といった課題が本校の児童には見られるため、教員の資質・能力の向上と併せて、児童の学習意欲の向上や学習習慣の確立、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力を育んでいくことが必要であると考えます。

2 学校教育目標の具現化から

本校の学校教育目標では「進んで学習する子の育成」を掲げている。学ぶことに価値を見出し、基礎的・基本的な知識と技能を確実に身に付け、それらを活用しながら主体的・協働的に学びを深めていく児童を育てることを目指すものである。

3 研究経過及び児童の実態と授業者の実態から

平成26年度の学校公開に向けて研究内容を検討した際、各種検査の分析を行った結果、国語科「読むこと」領域の正答率が低いという現状が明らかになった。ゆえに、学校公開に向けて「算数科」に加え「国語科」も研究教科とし、「児童が主体的に学び『わかる』『できる』を実感できる授業づくり」を目指して授業改善を行った。学校公開を終え、算数科の授業づくりが改善されたことを受け、児童の実態から「読むこと」領域の指導を充実させることが必要であること、また、「国語科」の授業づくりに課題を感じている授業者が多いという現状を受け、平成27年度からは、研究教科を「国語科」に絞り研究を進めている。平成29年度以降は国語科を柱としながら、複式学級における授業の工夫についても研修を行った。30年度は引き続き、具体的な手立てを講じた「国語科」の授業づくりを進める中で、複式指導における授業改善や単式指導から複式指導への接続についても進めてきた。

4 遠野中学校区 学力向上の視点から

遠野市では、平成25年度から「義務教育9年間を踏まえた指導の充実」と「小学校・中学校の更なる連携」を実現するため、3中学校区での学力向上の取り組みが開始された。各中学校区の学力向上研究員部会において、児童・生徒の実態に係る相互交流及び「授業改善の視点」の設定とその検証、小中両校種の授業研究会の開催及び校内研究に係る情報の交流等を実施している。

遠野中学校区の学力向上の視点は、「①課題意識の持続」と「②達成状況の把握」である。2つの視点を意識した授業づくりを行いながら授業改善を図っていくことが、本校の研究主題『児童が

「わかる」「できる」を実感できる国語の授業づくり』を達成するための一助になると考える。

II 研究の内容と方法

内容

(1) 本研究で目指す授業

① 「わかる」「できる」を実感できる国語の授業とは

児童が学習の目的・内容・プロセスに見通しをもち、主体的・協働的に学び、単位時間又は単元の終末段階において、国語の能力の高まりを児童がメタ認知できる授業。

② 学び合い、学びを表現する児童とは

自分の考えをもって、ペアやグループ・全体での学習に臨み、互いの考えを行き来させる活動によって、学習課題について深まったり広がったりした学びを、理由や根拠が分かるように表現できる児童。

③ 複式学習を行う上で付けなければならない力とは

間接指導時に自分達で学習を進めるための学びの力。

(2) 手立て

① 課題意識の持続の工夫（遠野中学校区 視点1）

→ 学習内容と学習プロセスの見通しを持たせ、主体的な学びとなるようにすること。

② 学習活動の工夫（学び合い、学びを表現させる）

→ 与えられた手立てをもとに、自分の考え（主体性）をもって、ペア・グループ・全体の学習（協働性）に臨ませ、友達の考えを自分の考えと比べながら学びを深めさせること。

→ 協働的学習を通して、深まったり広がったりした学びを、記述したり話したりすることで考えをまとめさせること。

→ 教科リーダーの活用により、間接指導時に協働的学習を進めさせること。

③ 達成状況の把握の工夫（遠野中学校区 視点2）

→ 学習内容や学習プロセスに照らして、振り返りの4つの視点を活用しながら、自分の言葉で学習について振り返る力を身につけさせること。

(3) 基本的な単元構想と指導過程（単式学級・複式学級共通の指導過程）

学習指導要領に示された指導事項をしっかりと身に付けさせるために、児童の実態を把握し、適切な手立てを講じたり、言語活動を位置付けたりしながら、6年間または9年間の学びの連続性を念頭に置いた単元構想を行う。

(4) 複式学習を行う上で付けなければならない力の育成

間接指導時に自分達で学習を進めるための学びの力。

項目	1・2年	3・4年	5・6年
育てたい児童の姿のイメージ	授業中の約束を守り、元気がよく学習に取り組むことができる。	学習の進め方や仕方が分かり、意欲的に学習に取り組むことができる。	自分から見通しをもって学習計画を立て、主体的に学習に取り組むことができる。
学習の準備	次の時間の学習用具を準備し、前時の学習を振り返ることができる。	時間になったら、進んで前時の復習をしたり、本時に学習することを考えたりすることができる。	前時のまとめをおさえ、本時の自分の学習課題を明確にもつことができる。
発表の仕方	指名されたら、返事をし	要点をしぼり、声の大きさ	筋道を立てて、相手に分か

	て、語尾まではっきりと話すことができる。	や話す速さに気をつけて話すことができる。	りやすく話すことができる。
聞き方	話す人の方を見て、終わりまで聞くことができる。	質問したり、よく考えて聞いたりすることができる。	話している要点を聞き取り、自分の考えとの相違点に気付くことができる。
話し合いの仕方	教師の司会のもとに、発表し合うことができる。	友達の発表をしっかりと聞き、分からないことを質問したりすることができる。	友達の発表との相違点に気付き、話し合った結果をまとめることができる。

(5) 学習用語の習得

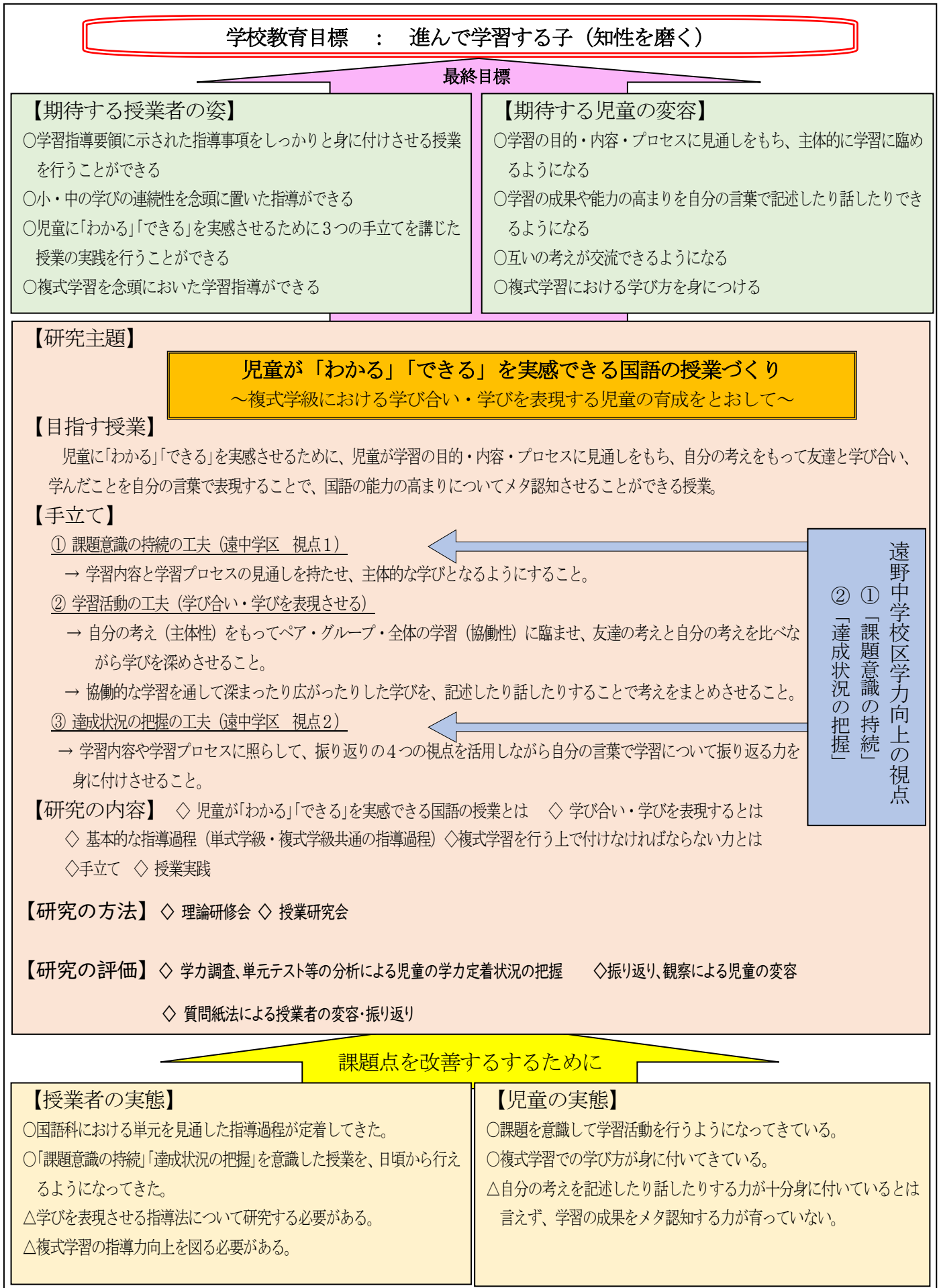
6年間または9年間の学びの連続性を確かなものにするために、教科書の学習用語を習得させる。

1年	かぎ 文 点 丸 反対の言葉 仲間になる漢字 まとめて言う言葉 題名 作者 訳者 平仮名 片仮名 のぼすしるし (ー) つまる音 (っ) 昔話
2年	主語、述語 わけ 説明 場面 登場人物 組み合わせた言葉 説明 質問と答え 順序 説明の文章 順序を表す言葉 (初めに、次に、それから、最後に、) 説明の文章 順序を考えて書く (初め、中、終わり) 画数 メモ 音読 記録 連絡 感想 手紙 神話 話し合い 原稿用紙の使い方
3年	段落 俳句 句読点 あらすじ 気持ちの変化 要約 例え 問いと答え まとまり 理由 インタビュー スピーチ 民話 司会 賛成・反対 付け足し 語り手 レポート こそあど言葉 目次 索引 国語辞典の使い方 清音 濁音 半濁音 部首 慣用句 ローマ字 俳句 文語 報告 筆者 小見出し 図鑑・科学読み物 会話と地の文
4年	暗唱 音読み 訓読み 文章構成 問いかけ 話題 中心人物 文末 連詩 修飾語 接続語 提案者 表・グラフ 作品の特色 事実 筆者の考えの関係 根拠・知識・技能 分類 整理 場面の移り変わり 感想の交流 人物の性格 段落どうしの関係 取材 感想文 図書館の使い方 案内 漢字辞典 広告 説明書 引用 司会 新聞・割り付け 簡条書き 聞き取りメモ お願いの手紙 お礼の手紙 ことわざ 短歌 百人一首 リーフレット ポスター アンケート
5年	文章構成図 要旨 序論、本論、結論 人物を推薦する 人物像 漢字の由来 物語の構成 (設定、展開、山場、結末) 心情 情景 編集 (新聞の特徴) 比べ読み 熟語 の構成 意見文 伝記 古文 古典 活動報告文 グループ討論 情報の収集・整理 理由を 裏付ける資料 統計 提案書 キャンプション 朗読 パネル討論 書き言葉・話し言葉 著 作権 方言 共通語 歳時記 敬語 (尊敬語、謙譲語、丁寧語) キャッチフレーズ
6年	物語の「語り」 熟語の構成 視点 筆者の意図 万葉仮名 漢文 漢字仮名交じり文 短歌 人物の関係図 プレゼンテーション 討論会 スピーチ 随筆 伝統芸能 名言 和語 漢語 漢詩 外来語 日本十進分類法 パンフレット

(6) 方法

- ア 理論研修・・・・・・・・講師を招いての研修会、先進校の研究会や公開への参加。
- イ 授業実践・・・・・・・・手立てを講じた授業改善の実践、視点を明確にした研究協議。
- ウ 学力調査等の分析・・・NRT や学力調査、単元テスト等の結果から児童の学力把握。
- エ 質問紙法・・・・・・・・児童、教師を対象にしたアンケートから変容を把握。
- オ 考察・・・・・・・・研究のまとめ、授業実践報告書の作成。

Ⅲ 全体構想図



IV 授業実践

1 課題意識の持続の工夫（遠野中学校区 視点1）の実践例

学習内容と学習プロセスの見通しを持たせ、主体的な学びとなるようにする実践

1年生「のりもののことを しらべてかこう」（2/13時間）

【本時の目標】 教材文を読んで、内容の大体を読み取ることができる。

段階	学習活動（○発問）	児童の発言・気づき
導入	1 本時の学習の流れを確認する。 ○2時間目になります。 ○ゴールは何になりますか。 ○何の車ですか。	・保育園のカードをあげます。 ・「スーパーカー」「飛行機」「ショベルカー」
5分	○ワークシートはわざと折っています。 ○はじめの文で気が付いたことは何ですか。 ○言葉を入れて読みましょう。 ○教科書の①を読みましょう。	・ここに（ ）があります。 ・ふねには（いろいろな）ものがあります。 ・合ってた。
	2 本時の学習課題をつかむ。 ○今日の課題を考えます。 ○いろいろってどういうことかな。 ○たくさん、出てくるってことですね。	・「どんなふねがでてくるかたしかめよう。」

前時を振り返り、単元のゴールを想起することで目的意識をもたせることができた。



ワークシートを用いることで学習の見通しを持たせることができていた。

考
察

学習内容と学習プロセスを提示することで、児童は見通しを持ちながら学習を進めることができた。板書に学習プロセスが掲示してあると、より明確に見通しを持ちながら学習に取り組めると期待できる。

2 学習活動の工夫（学び合い、学びを表現させる）の実践例

与えられた手立てをもとに、自分の考え（主体性）をもって、ペア・グループ・全体の学習（協働性）に臨ませ、友達の考えを自分の考えと比べながら学びを深めさせる実践

4年生「説明のまとまりを見つけよう」（3/9時間）

【本時の目標】 問いと答えの関係をとらえ、ヤドカリに付いたイソギンチャクの利益を読み取る。

段階	学習活動（○発問）	児童の発言・気づき
展開	5 意味段落に見出しをつける。 (1) ひとり学び（5分） ・各自で用紙に記入して黒板に貼る。 (2) 全体（3分）	・Aが用紙を整理する。 ・「イソギンチャクを押し付け



35分	るヤドカリ」「近づいてきてイソギンチャクを引っ張るヤドカリ」「イソギンチャクをはがし抱えるヤドカリ」から、理由を発表し、まとめる。	線を引いた部分を見せ合いペア学習の手順に沿って、話し合うことができていた。
-----	---	---------------------------------------


考察 線を引くことで自分の考えを確かめることができた。ペア学習で自分の考えと他者の考えを比較することで学びを深めることができた。自分の考えが誤答の場合、早い段階で教師の修正が必要不可欠である。

協働的学習を通して深まったり広がったりした学びを、記述したり話したりすることで考えをまとめさせた実践

6年生「将来の夢や生き方について考えよう」(3/10時間)

【本時の目標】 「板金職人、国村次郎の仕事」を読んで、国村さんのプロフェッショナルと感じたところを読み取り、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

段階	学習活動 (○発問)	児童の発言・気づき
展開	6 国村さんのプロフェッショナル観を表すタイトルを短冊に記し、掲示する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは～だと思えます。理由は～なのがプロフェッショナルだと思うからです。 ・無理です。 ・世界の職人、並外れた努力をする職人、あきらめない職人
35分	7 友達が考えた『さすがプロ、ここがすごい』を知る。 ○みんなだったらできる？ ○そこがプロフェッショナルだね。 ○では、タイトルをどうしますか？	



見つけた国村さんのプロフェッショナル観を黒板に掲示することで、他者の考えを知ることができた。

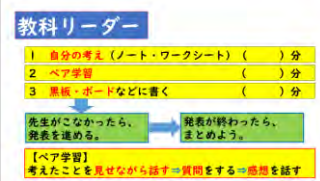
考察 ペア学習での考えを掲示することで、全体での比較・検討がしやすくなり、考えをより深めることできた。考えを分類化できるように実践の積み上げが必要である。

教科リーダーの活用により、間接指導時に協働的学習を進めさせる実践

3年生「はたらく犬について」(7/12時間)

【本時の目標】 「人を安全に導く訓練とは何か。」の答えを中心となる語句や文を考えて要約する。

段階	学習活動 (○発問)	児童の発言・気づき
展開	4 中心となる語句や文をつかって要約する。 ○2文を1文にしてください。 (1) 一人学習	<p style="text-align: center;"><教科リーダー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書いてください。タイマー3分間セット。 ・ペア学習をしてください。タイマー5分間セット。 ・まだホワイトボードに書き込んでいないため、3分間セット。
35分	(2) ペア学習 (3) 全体学習	



教科リーダーが進めることで間接指導時に協働的学習を深めることができた。

考察 間接指導時では、協働的学習を進めるために、教科リーダーを活用することで、円滑に取り組むことができた。協働的学習を深めたり広げたりするためには、教科リーダーの育成が必要となる。

3 達成状況の把握の工夫（遠野中学校区 視点2）の実践例

学習内容や学習プロセスの定着を把握するため、ノートやワークシート、短冊などにまとめさせる実践

3年生「読んで感想を伝え合おう」（4/9時間）

【本時の目標】 ゴマダラチョウは、どのように敵から身を隠しているのか、中心となる語句や文に着目して読み取る。

段階	学習活動（○発問）	児童の発言・気づき
展開	3 ゴマダラチョウのよう虫はどのように敵から身を隠しているのか問いに対しての答えを見付ける。 (1) 一人学び ・ラインを引く ・答えを書く (2) ペア学習 (3) 全体 ・ペアの考えをボードに記入し黒板に貼る。	・AとBは同じ考えだが、Cの考えは違っていた。 ・教科リーダーが考えをまとめることを困っていると、教師が修正に入った。
35分	4 問いに対しての答えをまとめる。	
分	5 段落に見出しを付ける。	



話し合う際、黒板にボードを貼ることで、問いに対しての答えとその理由が明確になり、把握できた。

考察

黒板にボードを掲示することで、学習内容が定着できているか把握しやすくなる。どんなことを記入すれば良いのか前もって教師側が基準を設定していることで、適切な支援を行うことができる。

学習内容や学習プロセスに照らして、振り返りの4つの視点を活用しながら自分の言葉で学習について振り返る力を身に付けさせる実践

1年生「のりもののことを しらべてかこう」（2/13時間）

【本時の目標】 教材文を読んで、内容の大体を読み取ることができる。

段階	学習活動（○発問）	児童の発言・気づき
終末	6 本時の学習を振り返る。 ○①～④で書いてよ。	・客船には3つの大事なことがあったと分かりました。 ・役目一つくり できることが分かってよかったです。 ・もっと上手にカードを作りたいです。 ・写真を並べるのが楽しかったです。
5分		



振り返りシートを工夫することで、4つの視点を選んで書くことができた。

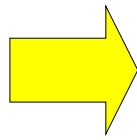
考察

自分の言葉で学習を振り返る力を養うには、振り返りの4つの視点を活用することが有効である。毎時間の学習内容と振り返りをリンクさせながら、記入できる振り返りシートになっている。より深い振り返る力を身に付けさせるためには、語彙を増やしたり、実践を積み重ねたりする必要がある。

各学年の振り返りの変容

1年生

る。だままるまるめてみまから
○あまるまじろは、から
△○○

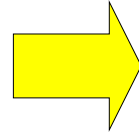


もっとやってみてみたいことを書いてある。

ふりがえり
○ △
でも わをのす
ずしほかりばか
ららめのますく
べどのどしたこ
てみうたころが
いなぶるが

2年生

ふろしきのとくちようがわかつた。
ふろしきがどのようなのかわかるとも
よかったです。

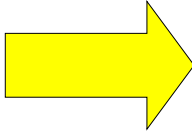


ふろしきの特徴を捉えて書いてある。

本の女しょうには、より
いにくわしく書いてある
◎本の女しょうかなか
む人がふろしきについて
からかいてわかった、しいのはよ

3年生

5.2
分かった。のしだのまがくた。のこ
か。つた。のまがくた。のこ

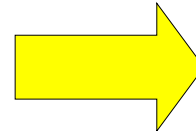


分かったことをさらに、増やして書いている。

たのまらなまはじめがわ
まのまらなまはじめがわ
たのまらなまはじめがわ
たのまらなまはじめがわ
たのまらなまはじめがわ
たのまらなまはじめがわ

4年生

ふり返り
今日は、どかかっているときは、二つのこと
が書かれていると分かりました。

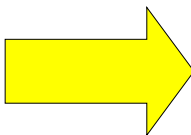


分かったことに加えて、話し合っって新たにできたことを書いている。

ふり返り
今日、どうしてのふよの、ゆううつな
す。べつて、一つの文にできたのでよかったです。

5年生

◎今日の勉強では、筆者の述べたこと
の中心を、要旨というわけが、た。

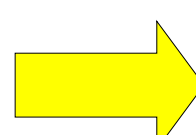


分かったことだけでなく、今後学習する際に気をつけることを書いている。

「ふり返り」まとめ
説明文には序論・本論・結論から構成されている。
今日は始め・終わりを序論・本論・結論というわけが、
また、みんな話し合っって、心彩のわくわくかいて、
ミラクルなやりたかった。

6年生

ふり返り
イースター島では、ヤンの本を少しだけ、
ねばり、友のていはいかて考えた。



話し合っって、自分が変わったことについて詳しく書いてある。

「ふり返り」イースター島には、ヤンの本が、
まとめが、おもしろい、た。ま、
また、みんなの考えを聞いて、すなわち、
とわたりました。本論・結論から構成されている。

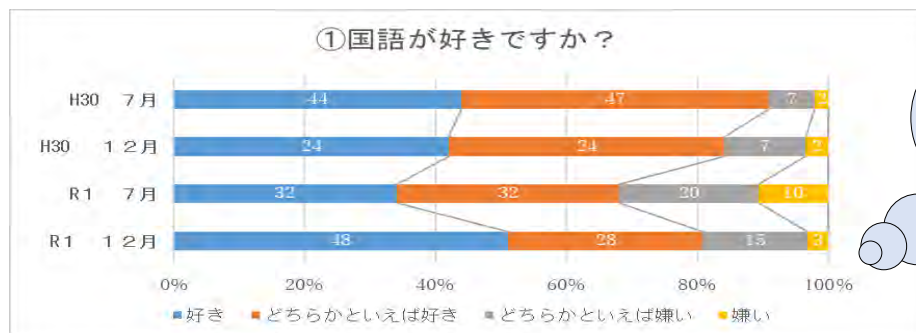
V 実践結果と考察

～各調査から見える児童の変容～

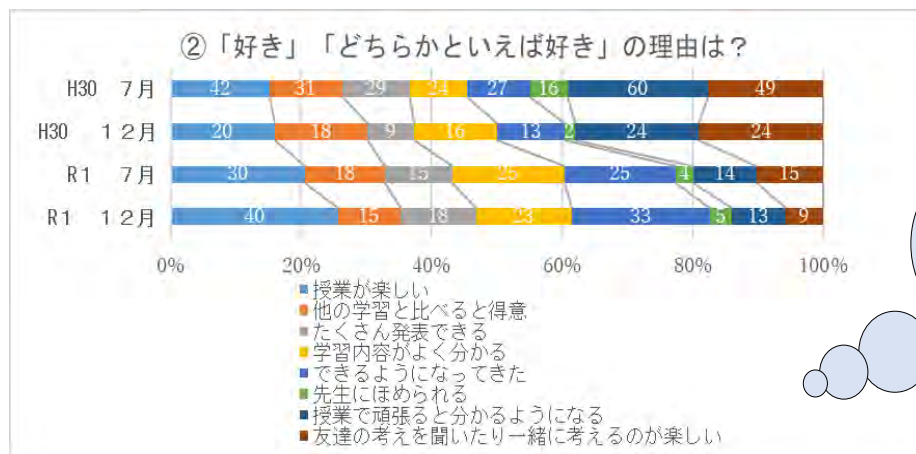
(1) 国語アンケート（児童の意識調査）

実施時期・・・平成30年 7月、12月、令和元年 7月、12月

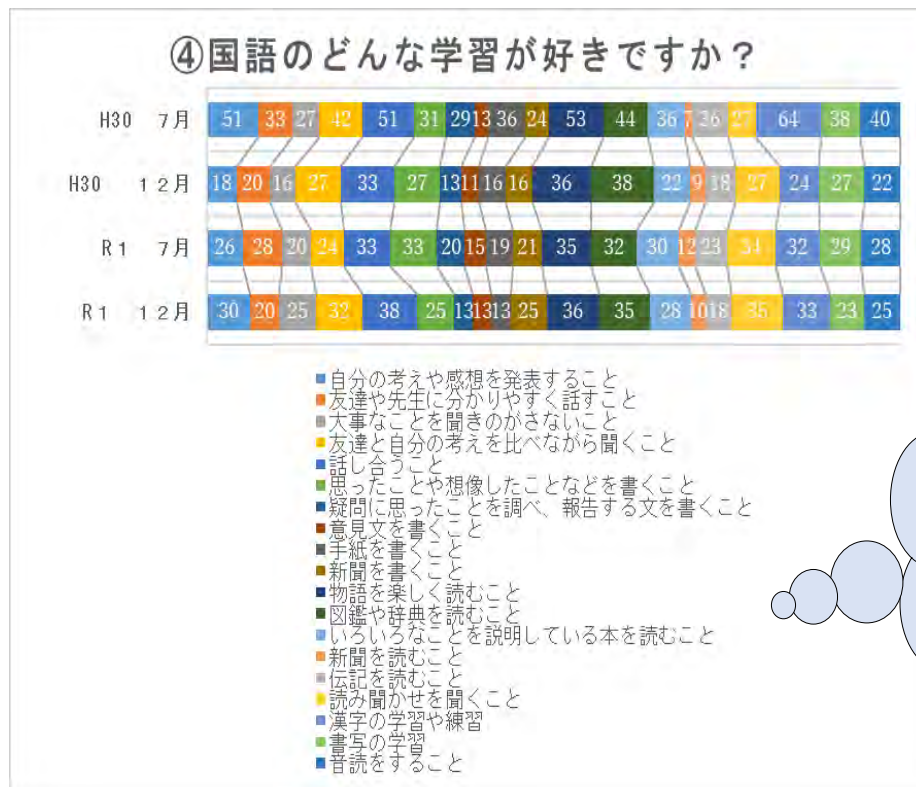
対象児童・・・全校40名（令和元年12月現在）



「わかる」「できる」を児童が実感できるような実践を重ねてきたことで、児童の意識につながった。



学習のプロセスを明確にすることや教科リーダーの活用が「学習内容がよく分かる」「できるようになってきた」の伸びにつながった。



協働的学習の実践を重ねることで、「話し合うこと」や「友達と自分の考えを比べながら聞くことが好き」の伸びにつながっている。

VI 成果と課題

【成果】

- ◎学習内容と学習プロセスの見通し（学習のゴール）を持たせることにより、自ら考え、自ら課題を解決しようとする児童が多くなり、学習意欲が高まってきた。1年生「のりもののことを しらべてかこう」のように、単元のゴールを示すことで、「カードを作って保育園児に見せたい」という意欲につなげることができた。
- ◎ペア・グループ・全体の学習（協働性）に臨ませることによって、友達の考えを自分の考えと比べながら学びを深めさせることができた。また、考えや根拠を自分の言葉で伝えることができる児童が増えてきた。6年生「将来の夢や生き方について考えよう」のように、自分の考えを出し合い比較検討することを繰り返したことで、学びを深めることができた。
- ◎児童の活動を黒板に残すことは、複式における達成状況の把握の工夫において有効な手立てであった。3年生「読んで感想を伝え合おう」のように、考えに対する理由を明示することにより、達成基準が明確になって、可視化されていく。
- ◎振り返りの4つの視点を活用することで、自分の言葉で学習について振り返る力が高まってきた。1年生「のりもののことを しらべてかこう」のように、振り返りの4つの視点で考えさせることを繰り返すことで、振り返る言葉の語彙が増え、自分をより深く見つめることができるようになった。

【課題】

- 「学びを表現する工夫」はたくさん提案されたが、どんな手立てがどんな時に有効なのかもっと深めなければならない。
- 「学び合い」を深める手立てや各自の考えを広げる手立てを類型化していかなければならない。

主な参考文献

- ・文部科学省（2017）「小学校学習指導要領」開隆堂
- ・文部科学省（2017）「小学校学習指導要領解説 総則編」開隆堂
- ・文部科学省（2017）「小学校学習指導要領解説 国語編」開隆堂
- ・文部科学省国立教育政策研究所（2011）「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」【小学校国語】教育出版
- ・文部科学省（2018）「初等教育資料」東洋館出版
- ・複式学級における学習指導の手引【改訂版】（2017）

北海道教育大学 学校・地域教育研究支援センター